

ほけんだより 8月号

2019年8月1日

社会福祉法人尚徳福祉会
保土ヶ谷保育園
看護師

プール遊びやどろんこ遊び、虫をつかまえて観察したりと、夏ならではの遊びを満喫している子どもたち。たくさん遊んだ分、しっかりご飯を食べて、十分な睡眠をとり、暑さに負けない体づくりに気を配りましょう。今月号は、先月保育園内でみられた感染症についての情報を載せてみました。ぜひお役立てください。

ウイルス性胃腸炎

対象療法

●初期の嘔吐のひどい時期

①吐いている時、吐き気のある時は、まずおなかを休ませてあげることが大切です。

吐いた後、2～3時間は何も(水分も)与えず様子をみます。

②吐き気がおさまったら少しずつ水分を与えます。

始めはスプーン1杯から。10～30分おいて吐き気がなければまたスプーン1杯を与えます。10～30分おきに少しずつ増やし頻回に少量の水分を与えます。

(母乳・ミルクの場合は①の後、哺乳を再開しますが、1回5分程度とし、やはり少量ずつ、1～2時間おきに様子を見ながら与えます。)

《飲ませる物》

◎経口補水液 →自宅に常備しておきましょう

○乳児用イオン飲料

△スポーツドリンク(アクエリアスにはちみつが入っているので1歳未満不可)

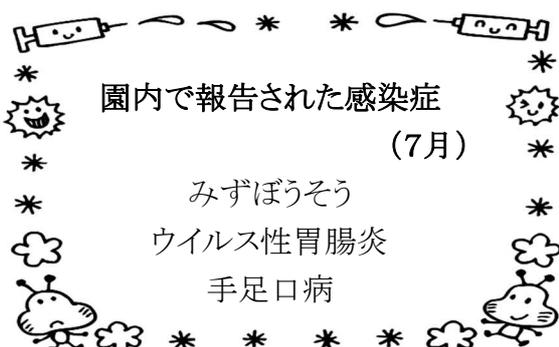
×お茶・湯冷まし・水(塩分・糖分が不足)

●水分をとっても吐き気がなければ(下痢をしていても)徐々に食事をはじめます。

手足口病

手のひら・足の裏・膝・おしり・口の中に発疹ができます。医師の診断を受け、熱がなく、食欲があり、元気があれば登園可能です。

保護者記入の「登園届」が必要です。



みずいぼ

(伝染性軟属腫)

「みずいぼ」は半年～1年で自然治癒するため取らなくてもいいというお医者さんもいます。

しかし、個人差があり、乾燥肌であったり免疫力の差で数年間自然治癒せず、全身に大量に増える子もいます。

かゆみを伴うことも多く、うで、足などの露出している部分は掻き壊し数が増えてしまうし、膿をもったりとびひになつたりする子もいます。

やはり数が増えると完治まで時間がかかり受診回数も多くなります。

5個以上に増えたら危険信号と考え、はやめに「皮膚科」を受診し治療方法を相談しましょう。

ピンセットでとるだけでなく、内服・軟膏などいろいろ治療法があります。



みずぼうそう (水痘)



潜伏期間: 2～3週間

症状: 熱は微熱か出ないことも。

衣服にかくれるような皮膚のやわらかいところから発疹が出はじめ、半日～数日で全身に広がっていく。直径2～5mmの赤い斑点の中央に水疱ができ、かゆみも出ます。

対応: 口の中に発疹ができるとしみることもあるので、刺激の少ない消化のよい食事を用意します。

とてもかゆいのですが、水疱を引っかいてしまうと化膿することがあるので、爪を短くし、かいてしまわないよう声をかけてあげます。

すべての発疹がかさぶたになったら登園できます。医師の記入する「意見書」が必要です。

はやめに受診し抗ウイルス薬を内服することで、水疱の数と持続、かゆみ、発熱の期間の短縮などの症状の軽減が期待できます。